



探検隊

大地震の歴史

立田村史によると、1854年11月4日と5日に大地震がありました。その前の大地震は1707年10月4日。その差147年になりますが、その間、1751年と1757年に津波がありました。年代順にすると1707年、1751年、1757年、1854年と、ほぼ50年周期となります。1800年前後には地震、津波ともになかったようですが、1815年には物部川の堤防が切れ、田畑家屋を流し、死者も多数出た大洪水（亥の大変）があったとの記録があります。

1854年（1846年12月21日の南海大震災からちょうど100年ほど前）の大地震と津波が安政の大地震。11月4日、辰の刻（朝）強震があり、津波が起きました。それから第2震があり、大津波。今の立田の町近くまで寄せて来る津波に、

人々は土佐山田の方面へ向かって逃げ走りました。物部川の逆流で、竹やぶに入って耐える人もいましたが、5日の夕方またも大揺れ。雨が降り、大音響は続き、強震、微震は翌年の正月まで続きました。このとき死者372人、負傷者180人、焼失家屋2500件、流家3200余り、潰家3000余り、その他被害大とのこと。（数字は土佐全体）

これらのことが記録され、残されているのも南国市の宝。立田まで津波がくるほどの大地震への備えはできるでしょうか。せめてもそのような歴史を学んでおくことはしておきたいものです。

参考データ

標高	立田西町	15.0m
	ごめん町駅前	12.1m
	浜改田東場	12.0m
	琴平山頂	70.1m
	市役所前	10.7m
	東道路明見御交差点	4.0m
	高知市 土佐神社	11.1m

同和教育シリーズ

いま部落は、そして……。

市民・県民の意識は？②

十数年前、愛媛県の江口いとさんは、次のような詩を書いています。

招かれなかったお誕生会
江口 いと

孫は小学四年生
かわいい顔した女の子
仲良しA子ちゃんの誕生会
小さな胸にあれこれと
選んで買ったプレゼント
早く来てねと友の呼ぶ
電話の声を待ちました
夕日が山に沈んでも
電話の声はありません
孫はポツリと言いました
きつと近所のお友達
おあせい遊びに行ったので
お茶わん足りずに
A子ちゃんは
困って呼んでくれないかも
二、三日たった校庭で
A子ちゃん家での誕生会

楽しかったと友人に
聞かされた孫はA子ちゃんに
どうして呼んでくれないの
私はとても待ったのよ

A子ちゃんとても

悲しい顔をして

私は誰よりも花壇ちゃんを
呼びたく呼びたく思ったの
けれど私の母ちゃんは
呼んではならぬと言ったのよ
それで呼べずにこめんねと
あやまる友のその顔を
みつめた孫の心には
どんな思いがあったでしょう

私は孫に言いました

お誕生会に招かれず
さびしかったらうねと

孫はあのねおばあちゃん
A子ちゃんとても優しいの
私の大事なお友達
A子ちゃん悪くはないのよ
お母さんが悪いのよ
大人ってみんな我ままよ

さみしく言った孫の目に
光る涙がありました

どんなするどい刃物より
私の胸をさしました

このような実態が今日でも
多く見られます。

前月号で紹介した文部省の「学校における同和教育指導資料」で、文部省当局は差別事象の背景・原因などを次のように分析しています。

(一)「同和地区の子と遊んではいけない」に見られる家族の偏見や差別意識からの発言が、子どもたちに無意識のうちに差別感を植えつけていた。

(二)家族や近所の人などの同和問題に対する誤った知識からの差別発言やその裏に潜む同和地区に対する偏見や差別が、児童・生徒の差別事象を生む要因となる。

